

今号目次

- ・ 積極的な施設見学を！
- ・ コラム『卒業生の就労先から見たこと』
- ・ 高等部産業現場等における実習及び校内実習実施



積極的施設見学のススメ



保護者の皆様には、積極的な施設見学を推奨しています。子どもの5年後、10年後の姿をイメージするのは難しいかもしれません。「先のことはまだわからない」「社会情勢や事業所の状況は変わるだろうから…」
「高等部になってから考えよう」などという話を耳にします。しかし、高等部卒業生の保護者からは「3年間はあっという間だった。小、中とは違う！」という声が必ず聞かれます。高等部では、事業所見学や現場実習を計画的に行っていますが、卒業後、しばらくするとミスマッチだったということもあります。

本人や保護者の立場としては、活動内容が物足りない、希望するサービスを受けられない、送迎が家まで来てくれないなどが気になります。一方事業所の側としては、定員がいっぱいである、個別の対応が必要である、さらに、一般就労や就労継続支援の場合は、個別対応の度合いが大きい、仕事をする上でのスキル、態度、集中力、正確さが不足しているなどの理由により受け入れられないということがあります。

これらは実際に生徒自身が現場実習や利用体験で経験しなければわからないことです。大人はその様子から判断するしかありません。進路決定していくには高等部3年間では足りないくらいです。

スムーズに進路先を決めるためには、小、中学部段階から「うちの子だったら」という視点で色々な情報を得られるようにする、保護者の皆様自ら情報を取りに行くことも大切です。「うちの子はこれが好きだから、得意だからこの事業所はどうか？」とか「自宅近くの施設はどこがあるのだろう。どんな仕事をしているのだろう？」などといった視点から始めてみてはいかがでしょうか。進路情報は、学校はもちろん、インターネットでも多数入手できます。本人はもちろんですが、保護者の皆様も、将来に向けて準備を始める姿勢を持ちましょう。学校も、本人や保護者の皆様の気持ちに寄り添いながら、バックアップいたします。

※近隣の施設一覧をお知りになりたい場合は、連絡帳等で担任にお伝えください！

👉 黒養ホームページにも様々な情報を掲載しています 👉

『進路指導』をクリックすると、進路に関する情報のメニューが出てきます♪



コラム:卒業生の就労から見たこと

先日、この春卒業した生徒の就労先 A 社の方が来校し、話を聞く機会がありました。本人からは『頑張っています!』との報告を受けていましたが、実際の働きぶりを上司から聞くと、元担任としては手に汗握るところ……。幸い本校卒業生は会社の戦力として仕事に励んでいるとの高評価をいただき、ホッと胸をなでおろしました。しかし、他の障害者雇用の状況も伺うと、人ごとではいられないと感じられました。

社会人1年目にぶつかる“壁”として『学校とは違う環境に戸惑いを感じ、会社適応に時間を要する』ことがあるそうです。①当たり前だった長期休業はなくなり休暇制度となりますが、毎月、自分だけ金や月の年休を申請し連休をつくる、②会社では友達ではなく同僚、上司と部下(自分)の立場となりますが、慣れると素直に指示を聞けなくなる、相手によって態度を変える、上司が見ていないと手を抜く(見ていても手を抜く)……。どこの養護学校でも作業学習やキャリア教育に取り組んでいますが、社会人としての常識的な部分の教育が、まだまだ不足しているようです。本人や保護者が希望するからと、働く意識や覚悟が備わっていないままに企業に就労しているという生徒もいるのだと思いました。

本校高等部にはビジネスコースがあります。基礎的な作業力などについての選抜試験に合格した生徒が所属し、一般の会社で働くために必要な技術、態度や知識、社会人としての働く意欲や態度を学びます。個別に厳しくビシバシ鍛えられると有名?なビジネスコースですが、ここでの学習の成果が、今回の生徒のように会社からの高評価につながっているのだな(“壁”に戸惑わずに充実感を持って働くことができる)と実感したのでした。

※この卒業生は、高2で不合格、高3からビジネスコースに在籍して学習しました。

ざわざわ…

ざわざわ…

ざわざわ…

ざわざわ…



高等部 後期産業現場等における実習及び校内実習

新型コロナウイルス感染症予防対応として、今年度の後期実習は、3年生の一部生徒が外部で産業現場等における実習を行い、1～2年生と3年生一部生徒は校内実習を行いました。校内実習では、作業学習の所属班にそれぞれ分かれて活動しました。実習の様子は以下の通りです。

就労支援事業所 NEXT



チョコなみおか



リサイクル班



織物班



ビジネスコース



農工班

